

施策評価（令和3年度）

施策評価調書

戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略			
施策6-7 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供			
幹事部局名	教育庁	担当課名	生涯学習課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和3年8月26日

1 施策のねらい（施策の目的）

地域コミュニティを活性化する取組や魅力ある地域づくりへの住民参加を促進し、元気な秋田づくりにつなげていくため、生涯学習の成果を行動に結び付ける環境づくりや文化遺産等の保存・活用に取り組むほか、読書活動や芸術・文化体験活動を通じて豊かな情操を育むとともに、共感を通じて人と人とを結び付け、協働・共生する心、主体的に判断し適切に行動する力の育成を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	施策の方向性(2)	
							R3 (H33)	備考
芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した小・中学生の割合(%)	目標			28.0	29.0	30.0	31.0	
	実績	26.6	23.7	24.3	18.6	15.4		
	達成率			86.8%	64.1%	51.3%		
出典:県生涯学習課調べ	指標の判定			d	e	e		
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対象となる4施設（美術館・近代美術館・博物館・農業科学館）で令和2年4月から5月にかけて臨時休館や開館時間の短縮を行ったほか、学校の休校措置や校外学習の自粛等もあり、例年利用の多い上半期の利用人数が激減したことから前年度より実績値が低下した。各施設における感染防止対策に配慮した活動内容の工夫や、学校への出前セカンドスクールの実施などにより、下半期の利用者数は回復傾向に転じたが、通年でのマイナスを挽回するまでには至らなかった。（2年度の利用人数は元年度比で、上半期39.9%、下半期119.9%、通年71.3%） 							

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 \geq 100% 「b」：100% $>$ 達成率 \geq 90% 「c」：90% $>$ 達成率 \geq 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

								施策の方向性(1)	
成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考	
生涯学習支援システムにおける生涯学習講座の登録件数(件)	目標			2,100	2,300	2,500	2,800		
	実績	1,569	1,570	2,351	2,785	1,809			
出典:県生涯学習課調べ	達成率			112.0%	121.1%	72.4%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、県内でも多くの生涯学習講座が中止となったことから、登録する行事そのものが大幅に減少したことが要因となっている。 	
		東北	-	-	-	-	-		

								施策の方向性(1)	
成果・業績指標②	年度	現状値 (H29)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考	
県立図書館司書による県立学校図書館への訪問支援等の実施件数(校)	目標			20	25	30	30	H28実績値11	
	実績	10	10	20	25	6			
出典:県生涯学習課調べ	達成率			100.0%	100.0%	20.0%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度は例年行っていた学校への計画訪問を見合わせ、要請があった学校図書館に限定して、訪問による個別相談対応や出前授業、読み聞かせなどを行った。 	
		東北	-	-	-	-	-		

								施策の方向性(2)	
成果・業績指標③	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考	
国・県指定等文化財の件数(件)	目標			767	770	773	776		
	実績	758	764	771	770	785			
出典:県文化財保護室調べ	達成率			100.5%	100.0%	101.6%			
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 国・県指定等文化財については、県指定として新たに有形文化財2件及び天然記念物1件を指定したほか、国登録有形文化財(建造物)として令和2年4月に7件、3年2月に5件の官報告示を受け、合計12件が登録された。 国登録有形文化財(建造物)については、市町村が推薦した候補物件を、文化庁調査官来県時に下見してもらう等、国や市町村との連携を密にしながら取り組んでおり、登録件数は増加している。 	
		東北	-	-	-	-	-		

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

（1）多彩な学びの場づくりと学びを生かした地域づくりの推進【生涯学習課、総合政策課】

指標	成果①②
----	------

- ・ 県内でも多くの生涯学習講座が中止となり、登録する行事そのものが大幅に減少したため、生涯学習支援システムの登録件数も減少したが、システムの講座情報へのアクセス数は102,817件<+1,617件>と前年度並みの実績となっており、高い利用ニーズがあることを確認できた。
- ・ 生涯学習センターによる「あきたスマートカレッジ」は多くの講座が中止もしくは次年度への延期を余儀なくされ、延べ1,103名<△1,964名>の参加者数となった。内容面では「障害者の生涯学習」や「防災」など時宜に適ったテーマを取り上げ、趣味・教養講座を中心とした市町村や民間の講座との棲み分けを引き続き進めている。また、研修講座ではオンラインの活用を積極的に取り入れた。5月に実施した「新任職員研修」は74名<+28名>、11月に実施した「生涯学習・社会教育研究大会」は520名<+356名>が参加し、オンラインで実施したことによる成果が見られた。
- ・ これまでの読み聞かせボランティア養成講座を基礎講座とステップアップ講座に分け、それぞれ県内3地区で実施することにより、全県域で学校や地域において読書活動を推進する人材の育成と読み聞かせ技術の向上を図った。
- ・ 県立図書館司書が要請に応じて学校図書館を訪問し、個別の相談に乗ることで、各校の実情に合った読書環境の向上を図った。
- ・ 「第7回ふるさと秋田文学賞」の作品を募集し、応募作132編の中から受賞作4編を収めた作品集を刊行（300部<±0部>）の上、県内の図書館等で閲覧や貸出ができるようにした。

<新型コロナウイルス感染症の影響>

- ・ 同一会場に講師と参加者が集まって行う従来の生涯学習講座のスタイルは、参集人数や移動の制限により大幅な見直しを余儀なくされている。各施設や生涯学習団体ではオンラインの活用も模索しており、一部で成果も出ているが、施設におけるインターネット環境の整備の遅れや、生涯学習講座の参加者にはインターネットに不慣れな高齢者が多いこと等が普及への障壁となっている。
- ・ 読み聞かせボランティア養成講座では、参加人数に応じた座席配置や会場のレイアウトなど、密にならないように気を配る必要があったほか、予定していた県外講師の招聘を断念した。
- ・ 県立図書館司書が例年行っている学校図書館への計画訪問ができず、要請訪問のみに限られたため、各校の状況が把握しづらかった。
- ・ 「ふるさとの文学と読書のつどい2020」を開催予定であったが、感染防止のため、中止とした。また、同時開催予定の「ふるさと秋田文学賞」表彰式も中止とし、受賞者に正賞等の発送を行った。

(2) 良質な芸術・文化体験機会の充実と文化遺産の保存・活用【生涯学習課、文化財保護室】	指標	代表①、成果③
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は施設の臨時休館のほか、学校の休校措置や校外学習の自粛等の影響により、特に上半期のセカンドスクールの利用が大幅に減少した。そのため、下半期は施設職員が学校に出向く出前セカンドスクールを実施するなどして学校の支援に努め、15校からの依頼があった。また、各施設ともハード面の制約がある中であって、コロナ禍でも実施できる活動メニューの開発やオンラインの活用等を行った。 博物館、美術館等の利用人数は、4施設（美術館・近代美術館・博物館・農業科学館）の合計で169,596名<△183,993名>となり、前年度実績からほぼ半減した。多くの展覧会やイベントが中止・延期を余儀なくされたが、近代美術館の「ミュシャ展」など、感染症対策を講じつつ実施できた展覧会もあり、県民に貴重な鑑賞機会を提供した。 「秋田県青少年劇場」を3公演<△6公演>（4校参加<△7校>）行ったほか、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」を活用し、巡回公演事業を8公演<△33公演>（13校参加<△47校>）、芸術家の派遣事業を16公演<△17公演>（13校参加<△6校>）行い、児童生徒に優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供した。 本県における文化財の保存・活用の基本的な方向性を示すために、令和2年度末に秋田県文化財保存活用大綱を策定し、保存と活用が相乗効果を生み出しながら文化財を継承していく姿を県民に示した。 「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、令和2年1月に政府からユネスコへ世界遺産候補として推薦され、9月には国際記念物遺跡会議（イコモス）の現地審査を受けた。現地審査やイコモスからの照会については関係市町と協議して進めるとともに、県民向け学習講座等を通じて気運醸成も図った。今後、3年7月の世界遺産委員会で世界遺産登録について審査される見込みである。 令和2年2月に、西馬音内や毛馬内の盆踊りを含む「風流踊」が、国の文化審議会でユネスコ無形文化遺産への提案候補として選定され、3月に政府からユネスコへ提案書が提出された。県としては、全国民俗芸能風流保存・振興連合会の総会に参加してパンフレット作成等に助言を行い、構成する団体の活動を紹介することに協力した。10月にユネスコより審査延期の連絡が入ったが、3年3月に政府から再提案され、4年11月頃のユネスコ政府間委員会で審査される見込みである。 		
<p><新型コロナウイルス感染症の影響></p>		
<ul style="list-style-type: none"> 上記のとおり、施設の臨時休館や学校の休校措置等の影響で、セカンドスクールの利用は大幅な減少となった。施設側では、感染症対策の徹底や、密集せずに行えるプログラムの工夫、学校に出向く出前セカンドスクールの実施などで対応した。 縄文遺跡群の価値や魅力を伝えるとともに普及・啓発を図るため、秋田フォーラムを毎年開催していたが、感染症対策のため、YouTubeに「秋田縄文チャンネル」を開設し、収録映像による動画公開で対応した。 		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
E	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した小・中学生の割合」は「e」判定であり、定量的評価は「E」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「E」とする。

●定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

●定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文		県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。					
満足度		調査年度	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見		16.1%	14.7%	12.8%		△1.9
	十分	(5点)	1.8%	2.2%	1.5%		△0.7
	おおむね十分	(4点)	14.3%	12.5%	11.3%		△1.2
	ふつう	(3点)	49.1%	47.5%	48.0%		+0.5
	否定的意見		14.2%	16.4%	18.3%		+1.9
	やや不十分	(2点)	10.1%	12.0%	13.1%		+1.1
	不十分	(1点)	4.1%	4.4%	5.2%		+0.8
	わからない・無回答		20.7%	21.6%	20.9%		△0.7
	平均点		2.99	2.95	2.88		△0.07
調査結果の認識、取組に関する意見等							
<p>○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.88」で、「ふつう」の3より0.12低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。 「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.8%、「ふつう」は48.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.3%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は60.8%であった。</p> <p>○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の主要な文化施設が秋田市に集中し過ぎている。(男性/70歳以上/平鹿地域) ・文化や芸術を担い、広く発信しようとする気持ちや意気込みが少し足りないように思う。(女性/30歳代/北秋田地域) ・学びの場が提供されていても、参加できる機会を増やさなければ意味がないように思います。コロナ禍で施設利用が減っているようですが、ニーズの変化に対応できているのでしょうか。(男性/50歳代/秋田地域) 							

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	<p>○ 同一会場に講師と参加者が集まって行うのが従来の生涯学習講座の基本的なスタイルだったが、遠方に居住する方や、高齢者、障害者等は参加が難しい場合もあり、今まで以上に誰でも参加しやすい講座が求められている。特にコロナ禍にあつては移動や参集に制約があることから、この傾向が顕著になっている。</p> <p>○ 高校生の読書ニーズの多様化により、学校図書館の資料整備や環境整備の面で、学校によって差が生じることが考えられる。</p>	<p>○ 令和2年度の実践でオンライン講座の利便性やニーズが明らかになったことから、アフターコロナを見据えて、対面とオンラインの双方の良さを組み合わせた、参加しやすく質の高い講座のスタイルを構築していく。併せて、高齢者や障害者も気軽に学習に取り組めるよう、講座内容の工夫や、適切に学習情報を提供できるコンテンツづくりに取り組んでいく。</p> <p>○ 県立図書館の図書セット貸出しによる資料整備や、要請に応じた学校図書館訪問による環境整備を行い、各校の実情に合った支援を進めていく。</p>
(2)	<p>○ セカンドスクールの利用を含めた美術館や博物館の利用は、従来型の鑑賞や体験を中心としたスタイルだけではなく、職員による出前授業やオンラインでの利用など、学校や利用者のニーズが多様化している。特にコロナ禍においては施設利用に制約があることから、この傾向が顕著になっている。</p> <p>● 県の主要な文化施設が秋田市に集中し過ぎており、学びの場が提供されていても、参加できる機会を増やさなければ意味がないように思う。コロナ禍で施設利用が減っているようだが、ニーズの変化に対応できているのか。(県民意識調査より)</p> <p>○ 縄文遺跡群の世界遺産登録や、民俗芸能「風流踊」の無形文化遺産登録に際し、地域の文化財の保存や活用について、地域住民の参加が不十分である。</p>	<p>○ 令和2年度に実施した出前セカンドスクールの取組は一定の成果が見られたことから、出前授業やオンラインの活用も含め、新しい利用スタイルを積極的に取り入れていく。また、施設に来館する場合も、密集・密接が発生しにくいイベント運営の工夫や、感染症対策を講じつつ行える学習プログラムの開発等、安全に利用できる環境づくりを進めていく。</p> <p>● 新たに施設を増やすことは難しいが、既存の施設の機能を活用し、移動展示や出前講座を積極的に行うことで、県民が等しく文化を享受できるよう努めていく。また、近年のインターネットの普及やコロナ禍による県民ニーズの多様化も踏まえ、オンラインの活用と、現場で本物に触れる良さを組み合わせた、新しい利用スタイルの普及を推進していく。</p> <p>○ 世界遺産、無形文化遺産への登録に向けた取組を推進するとともに、大綱に基づき、地域住民の愛着と誇りの醸成やガイドの育成、副読本の作成・配布による学校教育への働きかけ等、登録後を見据えた受入態勢の強化についても進めていく。</p>

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

<p>自己評価の「E」をもって妥当とする。</p>
